平成31年1月10日発行　毎月1回10日発行　No.379号

月刊推進技術

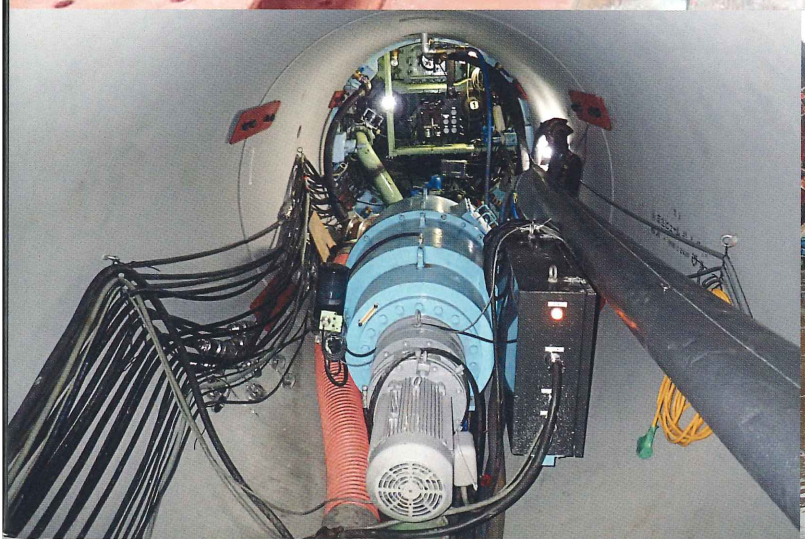
http://www.lsweb.co.jp/micro-tunnelling/

月刊推進技術　検索

監修：公益社団法人 日本推進技術協会　http://www.suisinkyo.or.jp　e-mail:info@suisinkyo.or.jp

1
Vol.33 No.1
2019（平成31年）

特集
推進技術の夢を追う



Topics　コンクリート劣化追跡調査でビックリート製品の有効性を実証

ビックリート製品協会

▲ 総会の模様

ビックリート製品協会（会長：大川内稔・日本ヒューム㈱代表取締役社長）は、11月21日帝国ホテル（東京・内幸町）において第23回定時総会および懇親会を開催した。

同協会は、日本ヒューム㈱、㈱安藤・間らが開発し、会員23社が製品展開しているビックリート製品（硫黄酸化細菌と鉄酸化細菌の活動を抑制し、硫化水素ガスによる腐食を防ぐコンクリート製品）の普及拡大を目的としている。

総会の議事では、昨年度の決算および事業活動を報告。「供用中ビックリート製品の現場追跡調査」として、全国12現場の劣化追跡調査を実施した。調査の結果、11現場は健全な状態で、1現場のみコンクリート表面に、わずかな変状が見られたものの、まったく問題のない状態であった。この調査結果は報告書にまとめ、PR資料としての配布やホームページへの概要版の掲載、業界紙へ記事として発表した。またビックリート製品が（公社）日本下水道協会のⅡ類認定機器材に登録されていることから「第24回下水道用管路資器材研修会」に参画し、PR活動および説明・質疑応答を行った。

今年度の事業計画（案）として、防菌性能と腐食抑制対策の有効性を示したビックリート製品のアピール、普及拡大を目指すため「現場追跡調査結果報告書」を有効活用し、ホームページや各業界紙を通じてのPR活動。技術面の対応や支部活動として、各支部や会員との情報交換、技術指導などの事業活動の支援強化を図る計画と、それに伴う予算案を審議し、原案どおり可決承認された。また、役員改選では、ゼニス羽田㈱の土屋明秀代表取締役社長が副会長に新任した。

▲ 追跡調査でビックリート製品の有効性が証明されたことを強調する大川内会長

総会および懇親会時のあいさつで、大川内会長は「1年前にホームページを一新し、随時更新することによって、Googleなどの検索エンジンで『コンクリート腐食』と検索をかけると、ビックリート製品協会のホームページが上位でヒットするようにした。これは「コンクリート腐食=ビックリート」という構図が、ネット上ではすでに確立されたといってもよい。また今回、全国で行った現場追跡調査で最長21年経ったコンクリートでも健全に保たれていることがわかり、ビックリート製品の効果・機能というのが証明されたわけである。その効果・機能をホームページなどでPRすることにより、実際の数字にも表れはじめ、去年は約2,800トン、今年は約3,500トンと確実に伸びている。この勢いで次は5,000トンを目指したい」と意気込みを語った。